2022年11月28日

2022年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘C)招聘成果報告書

（＊本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます）

（適宜行追加可）

受入担当教員	所属・職	総合政策学部　教授
	氏名	井上　一郎
海外客員教員	所属・職	中国　華北理工大学管理学院　教授
	氏名	魯　敏　(Lu Ming)
招聘目的		1. 授業担当及び研究　　2. 共同研究　　（いずれかに〇）
招聘期間		2022年 8月5日　～　2022年 10月30日
招聘成果報告 以下の内容を記載して下さい。 1.授業担当及び研究 (1)授業科目名 (2)授業担当の成果 (3)研究の内容 (4)研究の成果 2.共同研究 (1)共同研究の内容 (2)共同研究の成果		魯敏中国華北理工大学管理学院教授は、2022 年 8 月 5 日から 10 月 30 日の間、井上総合政策学部教授の受け入れのもとに客員研究員として本学に滞在し、研究及び学術交流活動を行った。元来、魯教授は 2020 年度に訪日の上、半年間の滞在を予定していたものであったが、コロナ禍で訪日が繰り延べとなり、本年度、滞在予定を 3 ヶ月に大幅短縮した上で、ようやく実現したものであった。魯教授の専門は政治学、行政学であり、同様に政治学分野であっても中国の政治・外交を研究する井上とは、研究対象は完全には重ならないものの、滞在中は、双方の研究について頻繁に意見交換を行い、また、総合政策学部教員を対象に研究発表会を行うなど、相互の理解を深めた。 以下、短期間ではあったが、魯教授の訪日中の研究について紹介すれば以下の通りである。魯教授は自己の専門である行政学の観点から、中国における中央政府と地方政府の関係の比較の上で、日本滞在中に日本の行政システムに生じている変化を研究した。戦後日本における中央・地方関係は、中央集権的なシステムから出発したものの、このようなタテ型の関係において多様化、増加しつつある国民の要求には十分に応えられないことから、徐々にそれぞれの地方行政単位に複雑な社会管理や公共サービスの提供をまかせるようになり、地方分権に向けての改革を進めてきた。その結果、地方の自主性、独立性を尊重するかたちでの権力の下放が行われたが、そのなかでも特に、財政面での対応が課題であった。全体として見れば、日本の地方分権は、集権的な中央政府の管理から「半地方自治」モデルへと変化を遂げ、かなり大きな成功をおさめたと評価できる。また、この日本の経験は、中国の中央・地方関係における今後の改革において、制度と法律による明確な権限と責任、更に中央政治の地方への介入の際の合理的な政策選択、あるいは監督、指導の面で参考になるといえる。 なお、魯教授の滞在期間中に、中国では 5 年に 1 度の大きな政治的節目である第 20 回中国共産党大会が開催されたこともあり、ここでの党大会報告をもとに、魯教授と井上との間で今日の中国政治について活発な意見交換が行われた。特に、中国の政治行政システムにおいては、共産党と政府が分離し、また、あるときには重なっており、この両者の関係（「党政関係」）はこれまでも重要な研究テーマであったが、この点に関して、現政権の方針の下での、地方や大学などの現場での最新の状況について理解を深めることができたことは大きな収穫であった。